

建国記念日を2月1日とすることに反対に関する資料

(紀元節)

北台川バプテスト教会

I 「2月1日」のもっている問題点

○ 2月1日とは、皇祖神武天皇即位といわれる神話上の日であり、橿原神宮など神道の祭日です。一宗派の祭日をもつて全国民の祝うべき国家の祝日と定めることは、信教の自由が犯されることであり、イエス・キリストを唯一の主と告白する私たちキリスト者の信仰と相容れぬところと判断いたします。

○ 2月1日は、国民感情において祝うに適切な日（オチノ通常国会、政府答弁）といわれます。それは重大な問題を含んでいます。天皇家の祭神を国民が共に祝うという擬似宗教国家観とその情緒の復活です。この観点から、紀元節は伊勢神宮や靖国神社の国営祭など一連の動きの中で捉えらるべき事柄だと理解されます。

すでに正代の各大臣が伊勢神宮に報告の参拝をすることしきりですし、建国記念日が問題となっている7月5日には海上自衛隊は公式の行幸として靖国神社参拝を計画しました。このような一連の動きの中で、私たちはキリスト信仰に立って紀元節を建国記念日とすることに反対せざるを得ません。

○ 2月1日のもっているその他の問題点

かつて「天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラス」とした明治憲法は明治22年のこの日に発布され、また戦時における最高の殊勲を讃える金鷲勲章は明治23年のこの日に設けられています。擬似宗教国家神国日本と軍国日本の発達は過去の正史において結びついてきたと云えますし、今の日本の国の動きの中でまた同じような心配があります。

また神武天皇即位の日を日本の建国の時とする正史教育は正しい正史教育を破壊し、偏狭な神国日本国民意識さらにはハズ一宇の世界観を培つてきたといえます。天皇家の先祖を神として国民が崇め祝う精神の在り方は、自由な信仰をそこなうのですし、同時に自由な学問研究、教育、思想、良心言論の在り方をそこなつてゆく懼れがあるわけです。

II バプテストの信仰に立つて

- 私たちバプテストは政教分離を聖書の主張だと信じ、大切にしています。それは一つには、政治も宗教も互いに他を支配したり従属したりする関係に立つてはならず、自由な良心をもつてキリスト信仰を貫くということです。一宗教の祭日をもつて国家の祝日とし国民にそれを祝うべく規制することは、政治による宗教の支配であり、良心による自主的な信仰のあり方をははむことです。この政治への従属を拒否することは、全き自由さの中でキリストを礼拝しようとする私たちの現在時点における信仰告白です。
- 政教分離の主張のもう一つには、政治も宗教も互いにその自由なゆらぎを保障することによつて、対話し支えあい、それぞれ独自のゆらぎを助ける関係に立つということです。私たちはこの国の政府が神から託せられている政治の面でも正しくあるように祈ります。紀元節再現反対はこの祈りの表現です。
- 私たちバプテストの先輩たちは、政教分離を主張することによつて時代の中で自由なキリスト信仰を守つてきました。それは政治から隔離することによつてなされるのではなく、政府や政府と結びつこうとするカトリック教会や国教会に挑戦し、自由であることによつて、その自由な信仰の歩みを形成してきました。日本のバプテストの正史においても、「宗

教法案（のちに宗教団体法案）]についての、北九州教役者会、
熊本地区教役者会、オマ5回年会、オマ7回年会の反対決議
などにも、あの旧憲法にありながらも信仰の自由を貫こうと
した先輩たちの努力を見ることかできます。私たちもまた今、
隔離によつてではなく、反対の発言によつて政教分離による
自由な信仰の歩みを形成してゆかねばならないと思います。

以上のような理解と判断に立つて、信仰のゆえに集る年会が信
仰告白としての意志表示するよう提案する次第です。